



9月の園だより

令和8年 9月1日
目黒区立田道保育園園長

夏の終わりを知らせるヒグラシのセミの鳴き声も届き、プールサイドや園庭に飛び交うトンボに秋の訪れを感じます。各クラスが育てていた夏野菜の生育も良く、今年もたくさん収穫し素材の味を生かした味付けをしてもらい美味しくいただきました。ある日の昼食時、事務所のインターホンが鳴り、3歳児クラスから栄養士を呼ぶ声がありました。呼ばれた理由は「なんでモロヘイヤはネバネバしているんですか」という質問でした。献立のモロヘイヤのツナ和えを食べながら疑問に思ったようです。ネバネバの理由はペクチンというものが入っているからであること、刻むと成分が溶け出してネバネバするなどの話を聞いた子の中には、ご家庭で伝えている様子も見られました。味噌汁に入っていた冬瓜を食べながら、「食べると溶けちゃうね、ゼリーやプリンみたいだね」と友達との会話も弾みながら昼食が進んだようです。毎日色々なことに興味を持つ子どもたち、大人も一緒になって面白がり、子どもたちの何でだろうという気づきや不思議さに応えていける丁寧な環境を保育の中で大事にしたいと思います。

今月は運動会に向けた取り組みも多くなります。夏の間は出る機会が少なかった園庭や戸外遊びも、気候を考慮しながら体を動かす楽しさを感じて過ごせるようにしていきたいと思います。

今月の予定

引き渡し訓練

※ 中旬 身体計測



▶ お知らせ ▶

来月の運動会は、暑さや天候を考慮し、田道小学校の体育館で行います。ご理解のほどよろしくお願いいたします。運動会の内容等については、後日詳細をお知らせ致します。

『心のつながり』 ～副園長エピソード～

少し涼しい夏のある日、久しぶりに多くのクラスの子どもたちが園庭で鬼ごっこや鉄棒、ボール遊びなどを楽しんでいました。そんな中、砂場遊びをしていた3歳児クラスのある子が私を見つけて近づいてきます。砂場で作った料理を両手で大切に運んできました。よく見ると、お皿に砂を盛り、上にピンク色の花びらが飾ってあります。「まあきれいな」と声をかけると、じっと私の顔を見つめて次の言葉を待っています。「何を作ったの?」と聞いてみると「かき氷」と教えてくれたので、今度は鼻を近づけて匂いを嗅ぐ真似をしました。「いい匂いだね、食べたいな」と言うと、満足そうににっこりと笑顔を見せてくれました。言葉のやり取りは多くはないのですが、表情やしぐさからその子の思いが伝わり嬉しくなります。一緒に笑い合えた瞬間は、子どもたちとの心のつながりを感じ、この仕事をしていて本当に良かったと思えます。

保育園ではこのようなやり取りをする機会が毎日何度も訪れます。その絶好のチャンスを逃さぬよう、子どもたちの心とつながれるような関りを、これからも大切にしていきたいです。



プールあそびをしました



『 けろけろ、わにわに 』 ペんぎん組（3歳児クラス）

「7月からプールに入れるよ」と話していてもピンと来ていない様子の子もたちでしたが、何度かプールに入るうちに「明日はプール？」と楽しみに待つようになりました。プールに入ると最初は水の冷たさにくすぐったそうにしていたのですが、アヒルやペンギンなどの動物になりきるうちに水に慣れていきました。中でもお気に入りにはカエルジャンプとワニ歩きです。「ケロケロ…」と鳴きながらしゃがみ「ジャンプ」で思い切り跳び上がります。「もういっかい」「ケロケロ」と何回も跳ぶ子どもたちの姿には本当にカエルになった気がするほどです。ワニ泳ぎはプールの底に手をつけるので全身が水につかります。顔に水がかかるので勇気が必要ですが水のトンネルや宝探しなど楽しんでいるうちにできるようになってきました。「先生見て」と得意顔でワニが進みます。「顔付けワニ」「グルグルワニ」などバリエーションも生まれました。初めてのプール活動をぺんぎん組も満喫できました。



『 顔をつけられるようになってきたよ 』 いるか組（4歳児クラス）

最初は水の冷たさで座ることも嫌がったり、水しぶきを避ける素振りもあったりしていたいるか組の子どもたちです。プール遊びを繰り返すうちにどうやったら顔をつけられるかという話になりました。「口を閉じて鼻をつまむ」とみんなで考えやってみると、顔をつけられるようになる子がぐっと増えてきました。プールで忍者の修行をしました。忍者のポーズを決めながら、肩まで水につかったり、水しぶきをあげないで歩くこと、水の中で走ってみることをしました。「忍者の諸君」と声を掛けると忍者ポーズをしながら「はいっ」と返事をしている姿が可愛かったです。「水とんの術～」で顔をつけたりもぐったり「鼻をつままなくても出来るようになった」と大はしゃぎでした。プール遊びを通じ、出来るようになったことが増え、またひとつたくましくなりました。



『 浮きたい！ 』 くじら組（5歳児クラス）

プール遊びでは「浮くものを作って乗ってみたい！」という思いから、ラップ芯を束ねたいかだづくりが始まりました。いかだの先頭には舵をとれるようにハンドルも取り付け、友達と相談しながらいざプールへ。ところが、浮かべてみるとすぐに沈み、ラップ芯のいかだも水に濡れて折れてしまいました。子どもたちは残念そうにしながら「どうしたら浮くかな」と考え、保育士が用意したペットボトルや発泡スチロールを見て、「これとこれをくっつけたい」「二人で乗れるようにしよう」と組み合わせ始めました。ペットボトルで作った船に二人で乗ることは難しく、乗る位置や体勢を工夫しながら、何度も挑戦しました。船が水に浮かぶと「浮いた～」と友達と顔を見合わせながら大喜びです。船や様々ないかだ作りにも挑戦し、浮かぶ感覚や水の揺れを楽しんでいました。試して失敗して、また考える中で友達と力を合わせながら遊びを広げていく姿が見られました。

